

第 29 回（通算 147 回）全経簿記検定試験 上級 的中と講評

商業簿記・会計学

科 目		第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
商業簿記		決算三勘定	損益計算書 的中！	本支店会計
会 計 学	第 1 問	正誤問題的中！	正誤問題	正誤問題
	第 2 問	ソフトウェア	退職給付会計	債権の分類と貸倒見積高の算定
	第 3 問	キャッシュ・フロー計算書	税効果会計	配当可能限度額

講評

〔商業簿記〕

商業簿記は決算整理事項から損益計算書を作成させる問題が出題されました。特に難問といったものはありませんでしたが、特徴としては、消費税の処理が税抜方式であったことと、税効果会計の処理があったことが挙げられます。

税効果会計については、各資料に適用の指示があったため、解きやすい問題でした。

商品の仕入・売上の修正については消費税を忘れずに処理したかどうか、また、損益計算書作成のため、科目の表示区分を覚えていたかどうかポイントとなります。総括すると 1・2 箇所は不明の箇所があっても正確に解くことによって高得点が狙える問題でした。

〔会計学〕

全体として、基本的な問題が多く高得点も狙えたことと思います。

第 1 問は、従来通り正誤問題でした。内容的には伝統的な会計基準からの出題が少なく、多くが新会計基準からの出題でした。減損や 1 株当たり当期純利益などは、間違えても仕方ないと思いますが、基本的な問題も多いため、7～8 問は正答していただきたかったところです。

第 2 問は、商品の費用配分・一般原則に関する理論と割賦販売に関する計算問題でした。予想には挙げていませんでしたが、内容的には基本的なものなので、ここも 7～8 割程度解答して欲しいと思います。割賦販売に関する計算は、割賦販売の収益の認識基準について整理できていたかどうかポイントとなります。

第 3 問は、貸借対照表の作成に関する問題でした。各科目が貸借対照表の何れに記載されるかを理解出来ていたかどうか、ポイントとなります。

第 29 回（第 147 回）全経簿記検定試験

的中と講評

工業簿記・原価計算

科 目	第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
工業簿記	工程別総合原価計算	組別総合原価計算＋ 連産品・副産物	標準原価計算 的中！
原価計算	設備投資意思決定	業務執行意思決定＋ 事業部制	直接原価計算＋ CVP分析 的中！

講評

[工業簿記]

工業簿記は、標準原価計算が出題されました。予想でも、第3予想に挙げていましたし、基本的な問題であったと言えますので、しっかり対策をされていた方は、高得点が狙えたことと思います。

今回の標準原価計算では、問1から問3までが差異分析の基本的な問題でした。問5で原価差異の追加配賦については、小数点以下の端数調整を的確に処理できたかがポイントになると思います。この端数調整でミスをしてしまったとしても、致命傷にはならないと思います。

[原価計算]

原価計算は、第1問がCVP分析、第2問が経験曲線効果の問題でした。

第1問の直接原価計算のCVP分析は第3予想に挙げていました。計算が複雑な問題もありますので、落ち着いて解けたかどうかポイントになると思います。全部原価計算のCVP分析は、あまり馴染みがないと思います。操業度差異について、的確に処理できたかどうかポイントになりますが、出来なくても、合否には影響ないと思います。

第2問は、見慣れない形式の問題ではありますが、計算自体は難しくないのです。計算自体は完答していただきかったです。理論は、問4はわかる範囲で1～2行ほど書いていただきたいと思いますが、問5は書けなくても問題無いと思います。